

平成 25 年度第 2 回 PF-UA 幹事会並びに 運営委員会議事録

【幹事会】

日時：11 月 23 日（土）13 時～14 時 45 分
場所：高エネルギー加速器研究機構 4 号館 2 階輪講室 1
出席者：佐藤衛，朝倉清高，清水敏之，沼子千弥，井田隆，岡林潤，植草秀裕，朴三用，篠原佑也，伊藤孝憲，近藤寛，村上洋一，足立伸一，熊井玲児，千田俊哉

議題：運営委員会議事を参照

【運営委員会】

日時：11 月 23 日（土）15 時～17 時
場所：高エネルギー加速器研究機構 4 号館 2 階輪講室 1
参加者：佐藤衛，朝倉清高，清水敏之，岡林潤，植草秀裕，朴三用，篠原佑也，雨宮慶幸，井田隆，栗栖源，近藤寛，佐々木聡，高橋嘉夫，沼子千弥，藤森淳，船守，三木邦夫，百生敦，横谷明德，伊藤孝憲，足立伸一，熊井玲児，千田俊哉，村上洋一，河田洋

議題：

1. 会長挨拶
2. 木村利用幹事が PF の職員になり幹事を外れることになったので，PF-UA 会則第 12 条に基づき，会長は伊藤孝憲氏（AGC セイミケミカルズ）を利用幹事に指名し，運営委員会で承認された。

3. 施設報告（村上施設長）

(1) 将来計画関連について

日本学術会議のマスタープランとして新しい時代の科学技術立国を支える放射光科学の高輝度光源計画として高輝度 3 GeV 蓄積リングと回折限界リング計画が提案されている。これに関連して，KEK ロードマップには附記という形で高輝度 3 GeV 蓄積リングに対する KEK の姿勢が記述されている（平成 25 年 10 月 29 日）。さらに，物構研内部では，将来計画検討ワーキンググループを作って物構研の将来計画について議論しているが，ユーザーコミュニティとの連携も必要であるので，PF-UA に対して協力の依頼があった。

(2) 人事関連について

(3) 運転時間について

2013 年度は，電気代の値上がりの影響で，PF で 3500 時間台の運転時間になってしまった。震災前は 4000 時間を確保していたが，今は予算的に厳しい状況が続いている。PF-UA としては，4000 時間以上の運転時間を確保できる

よう，要望を出して行く。

(4) 放射光実験関連事項

- ・ PF-AR 直線入射路工事に伴う放射線遮蔽作業とビームタイム一部キャンセルについて
- ・ PF 直接入射路工事のため，PF-AR を 2015 年 7 月～12 月まで停止し，2016 年 1 月から 6.5 GeV 運転が可能である

(5) 2014 年前期課題申請状況 T 課題 3 名

(6) コンパクト ERL 関連事項

周回部の建設が終了し，2013 年度に周回運転達成，2014 年度に LCS ビーム。

(7) 物構研特別シンポジウム：2013 年 12 月 17 日 小林ホール。

(8) 物構研サイエンスフェスタ：2014 年 3 月 18 日（火），19 日（水）エポカルつくば。

5. PF-UA 幹事会からの報告

(1) 庶務幹事 PF-UA の賛助会員の増加を促進して行く。国際結晶年に関連するシンポジウムに共催する。

(2) 行事幹事

物構研サイエンスフェスタで，PF-UA 総会を行う。担当：清水幹事

放射光学会 合同シンポジウム（広島）2014 年 1/11-13 で PF-UA の集いを行う。担当：井田幹事 1/11 12:30-13:30 PF-UA の集い（12:00-13:30 幹事会）

(3) 利用幹事 P 課題 申請条件等についての変更提案

(4) 戦略将来計画 BL-4A がユーザー運営ビームラインとして運用が始まる。

(5) 選挙管理 次期会長選挙について，

(6) 教育担当 T 課題の募集を H25 年度 11 月期の課題募集から開始した。

- ・ 課題申請のサポートを PF-UA の HP で宣伝した。PF-UA T 課題申請相談室として 5 名のサポートが入る。
- ・ T 課題の条件として，かなり PF に常駐し，内部スタッフと連携して実験を行うことを強調する。
- ・ 学生のメリットは，PF スタッフを指導教員とすることができることである。
- ・ 学生の主体性を語るために，口頭での面接を行う。

6. P 課題の変更について（篠原幹事）

P 型課題：

1. 初心者型の申請の解釈を拡大し，経験者でも新しい手法に取り組む場合には，初心者型とする修正案。
2. 初心者型の申請に経験者排除条項を除く。
3. P 型課題の受け入れ時期を，これまで年 2 回から，随時に変更する。

2 点目について，PAC でかなり批判があったので，PF-UA

の運営委員の意見をいただいて、次回の PAC の会合に
語りたい。

場合によっては、本来 G 型 / U 型課題で申請すべき課題に
ついて、初心者や課題責任者として P 型課題として提出
されるなど、P 型課題の趣旨とは異なる課題が提出される
可能性もある。この点に関しては、申請提案が研究の予備
的な検討の状態であれば問題ないと考えられる。間口を広
げる、ということについてはいいのではないか。P 型で出
てきたものが G 型の方がいいと思われる場合には、G 型
を勧める。

7. ビームタイムについて

電気代の高騰のため、運転時間が減らされており、例え
ば XAFS 関連のビームタイムでは、配分率が 55% と非常
に厳しい状況になっている。

この配分率の低下は、PF の Activity に影響を与える心
配がある。

⇒これについて、PF-UA として KEK や物構研に要望を出
した方がいい。

また、文科省から、採択率 90% という数字は、SPring-8
の 70% に比較して高すぎるといった意見もあり、これが一
人歩きしないように、注意が必要。採択率×ビームタイ
ム配分率が実際の状況であるので、これを説明してゆく。

8. 3 GeV リングと将来計画について

All Japan 体制を確認し、12 月 9 日および 10 日に東北大
学金研で開催されるシンポジウム等を利用して東北計画と
整合性をとることが重要であることが確認された。